



NEWS

Trade Association
Fukuoka Foreign

福岡貿易会 会員広報誌

発行・編集／社団法人 福岡貿易会
〒810-0001福岡市中央区天神1丁目4-2
エルガービル7階
TEL.092-724-7131 FAX.092-735-4205
E-mail: info@fukuoka-fta.or.jp

vol.1

「福貿ニュース」リニューアル!!



市長対談「アジアの中核都市福岡」

CONTENTS

【市長対談】 アジアの中核都市福岡	2～4P
【奮戦記1】 福岡のアジアネットワークを夢見て	5～6P
【奮戦記2】 中国物流に係わって三十年	6～7P
平成18年「九州経済圏貿易概況」	8P
「アジア経済交流センター」事業セミナー報告	9～10P
「今後のセミナー・行事」スケジュール	11P
編集後記	11P
会員メッセージ	12P

【表紙の横顔】 福岡市長 吉田 宏 / 福岡貿易会会長 並田 正一

市長 対談

「アジアの 中核都市福岡」

昨年12年7日の初登庁より3ヶ月経った
吉田福岡市長に福岡貿易会並田会長が
今後の福岡の舵取りについてお聞きしました。

(会長)

選挙の公約でアジアの中核都市、福岡とあげてありますが、今後どのようなことを行っていきたいのでしょうか？

(市長)

インフラ面では、港湾もコンテナでいくと100万TEUが視野に入る位、右肩上がり伸びてきており、次のステージに行けるくらいに育ってきているのではないかなと思っています。

ただし、中核都市と言えるには、空港では、滑走路でも4本くらいあって当たり前、港湾にしてもお隣の釜山が進めています港湾整備に比べますと、福岡は大型のインフラだけで勝負できるとは思っていません。

福岡が中核都市としてひとつの方向性が見えてきたかなと思うのは、人材をどうやって育てるかということ、これは、アジアのなかでも十分優秀な人材がいる街、それは日本人だけに限らず、アジアからの優秀な人材、知識人が集まる福岡、人材の価値が本当にわかる街というようにしたい、なりたいと思っています。

(会長)

福岡は、住みやすい暮らしやすい街というのが、人材が集まるいいポイントになっているんですね。さらに住みやすい、暮らしやすい街づくりが市長の考えにあるのでしょうか。

(市長)

そうですね。大事だと思いますのは、九大が移転して、あそこが本当の意味の「知性の門前町」というふうにしていかなければと思います。先日行って参りましたが、学研都市づくりと具体的にはなっていますが、実際には、まだ、大学の一部が移転しただけで、周り



は田んぼですよ。あそこをあのままで、ただ大学が移転しただけの場所で終わらせてはいけない。まあ、スタンフォード大のように門前市がたつとか、インキュベーターとか、ベンチャーとか大学の周りにしっかり張り付いていくということをできればやりたいなと思っていますね。

「博多港、福岡空港の整備・ 機能充実について」

(会長)

福岡貿易会の主たる業務として、貿易インフラのハード、ソフト面をサポートしていく役割がありますが、特に港湾関係、今回の予算に特にご配慮していただきまして、本当にありがとうございます。今、港湾は非常に調子いいですし、非常にありがたいことだと思っています。そういうことで、港湾関係、空港関係をこれからどう整備していけるのか、具体的にお話しただければと思います。

(市長)

港湾については、今、一番動いているのがアイランドシティの15メートルの大水深の岸壁で、1年後には岸壁が出来上がり、そのバックヤードも早く整備したいということで、全部それができあがると、100万TEUに対応できる体制ができます。その後の整備については、財政問題ともからんできますが、現在70万なので、しっかり100万TEUに届き、これじゃまだ足りないとなったら、次のアイランドシティでいえばD岸壁（現15メートル岸壁の沖側）と呼ばれているところの整備になりますが、ただそこは、財政と両にらみでいかなければと思いますね。

(会長)

そうですね。税収も増えるようにして、両立して行ければ一番理想なんですけどね。空港の方はいかがでしょうか。

(市長)

空港の方は、現在、国と県・市が進めています調査のステップ3ということで、ステップ4が結論ですので、もうすぐ結論に近づくための論点が、でてくると思います。その中で、こういった方向性が示されるのかですね。4月の半ば以降になるくらいでしょうけど、今の空港をもう少しバージョンアップするのか、どこかを考えるのか色々な議論、色々な方向が示される予定です。

(会長)

特にビジネスマンにとっては、空港が生命線ですので、便利で良いものができるか、そうでないかで都市の浮沈にもかかわってきますね。私も仕事であちこち飛び回ってまして、うまくいったところ、本当にそうでないところとかなり差が出てきていますね。まあ、香港なんか、本当に都心から遠くなったんですけど、実質上の利便性は全く落ちていませんね。

(市長)

あそこは、空港のシステム自体も高速鉄道の終点ですから、非常に使い勝手が良いですね。中部セントレア空港も似たような感じですね。

(会長)

セントレアもそうですね。非常にうまくいっている。使う人の立場に立って作っている気がしますね。

(市長)

そうですね。お金のことは別にして、しっかりああいいう高速鉄道が敷ければ、ある程度離れた場所でもやれるというのは、おっしゃった香港、上海もそうですね。

(会長)

近くて便利な空港は、都市発展の柱にもなりますし、その観点からも、ぜひ良い空港づくりをお願いします。空港は、最近少しフライトが減ってきていますので、これを何とか立て直しをお願いします。

(市長)

香港便も減ったようですね。実際、影響がでてきていますよね。香港だけじゃなくて、深圳から入ってくる人もいるわけだし、福岡のアジアに近いという優位性を保つことにとっては、困った事態です。

(会長)

我々もその辺については、頑張っているんですけど、是非、市長のお力をお願いします。



「北部九州自動車150万台構想、 自動車関連産業について」

(会長)

今、自動車150万台生産を目指して、カーアイランド九州になりつつあるんですが、これに絡みまして、福岡市への誘致についてどういう風にお考えですか。

(市長)

先日、私自身が名古屋に行って、トヨタの専務に直接お会いしお願いをしてきました。博多港を引き続き中国向けの輸出港として利用していただきたいとか、この先、こういった戦略があるのかというようなお話しなんかもしてきました。今年は、レクサスが5万台とかいってましたね。さらに来年はもっと増える可能性があるということで、中国戦略の中での位置づけとしてやっぱり九州、特に福岡がかなり大きくなっていると、これはトヨタ上層部もはっきり明言されていて、それに関連して私どもとしては、トヨタ本体へのアプローチは当然ですけども、デンソーとか、アイシンとか一次部品メーカー等関連のいろんな業種のところに、今、どんどんアプローチしています。

(会長)

トヨタさんも九州を、名古屋と並ぶ拠点に育てようと考えていらっしゃるようですね。

(市長)

関連企業の社長さんがおっしゃっていたんですけど、名古屋にとって福岡は本当に隣町だと、私どもにとって嬉しいおっしゃりかたで言われていました。実際、さっきの空港の話にもどりますけど、セントレアから福岡に飛ばば宮田の工場までもすぐですし、逆に

市長 対談

福岡の都心からは本当に5分、10分なので、ある組み立て関連のソフトメーカーからは、博多駅周辺、天神周辺でオフィスをさがしてくれとお願いされました。

こちら、言われたら材料をすぐ提供できるようにしっかり体制をとりたいと思っていますし、それに加えて、来ていただく企業の方々へのインセンティブも整理させているところです。他の都市が持っているインセンティブなり、誘導施策、税制、ワンストップのサービス、いろんな面でちょっと劣っている。だからそこは、きちんと制度を作って、少なくとも、よその都市に負けないインセンティブを出さないと、じっとしていても来てくれる時代ではありません。

(会長)

そういうことが増えてくれば、アイランドシティは、大きな武器になる可能性がありますね。

「福岡貿易会に期待すること」

(会長)

当会が来年50周年になりまして、会員も非常に充実してきました250社になろうとしており、さらなる充実のため、当会に期待するものや会員へのメッセージをお願いします。

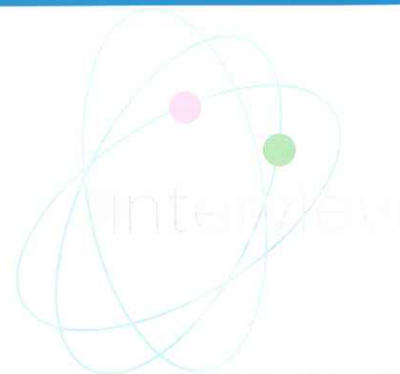
(市長)

ちょっと注文みたいになるかもしれませんが、福岡貿易会自体がもっと存在感を発揮できるようなことを、市も一緒になってやっていけたらと思っています。私が目指したいのは、本当の意味のアジアの拠点、本当の意味での国際的な物流も人流も含めた拠点になるとすれば、やはり直接貿易に携わっている人たちが街の中で存在感を上げてもらうことが、施策を進める上でも非常に重要になるのではないかと考えています。

たとえば、横浜なんかで言えば、港というものに市民の理解があり、実際に港の影響力が大きいわけで、そのことに対しての施策の理解が大変進んでいます。福岡市は、港町なのに港そのものの存在感が薄いと、ある意味では貿易に携わる人たちの発言力、影響力をもっと高めていただきたいと思っているので、もっと一緒にやれることがあるのではと思っています。

(会長)

おっしゃるとおり、福岡市がこれからどういうふうになっていくか、どう食っていくかですね。福岡は物作りというよりやはり、物流あるいは商業、国際貿易、



シンガポールや香港のイメージのような交易都市ですね。その中で貿易会としましては、概念としては、物の貿易だけに限らず色々な国際ビジネス（情報、人材派遣等）の一つの支援組織というかたちでやっています。会員もそのような方が増えていますね、これまでなんとか市と二人三脚でやってきましたけど、これからも交易都市としての福岡市と一緒に強化していきたいと思っています。

(市長)

そうですね。極端に言えば、「福岡って面白いよ」、「外国人が2割も3割も住んでいるよ」というような街に本当はしていきたい。そのことに不安を言われる方もいるでしょうけど、福岡が本当にアジアの中で存在感を出して、さらに発展していくには大胆な国際化を避けるべきではないし、ある種少々摩擦があっても、その方向で進んでいかないと将来もないし、ある意味福岡の個性が発揮できないんですね。

「市長の趣味」

(会長)

最後に、市長のご趣味の話をお聞かせください。

(市長)

昔はゴルフ行ったり、読書したりですけど、料理するのが割と好きで……。家で仲間を呼んで料理して、週末なんかよくやっていたんですけど、地震が起きてから調子がちょっと狂っています。

結婚をして20年ですが、妻が器が好きでいろんなところに行くたびに集めたり、彼女なりに結構自慢だったんですよ。誰も福岡に大きな地震があるなんて思っていなかったんですけどね。観音開きの結構大きな棚に入れていたのですが余震も含めて、せっかくセットでそろえていたものの半分割れるとか。そうこうしているうちに、選挙があり……。今は人をお呼びする状況ではないですけど。本来料理を作るのが好きで、自分のリフレッシュにもなりますし結構みんなでわいわいやったりするのが好きなんです

Profile

吉田 宏(よしだひろし)

- 福岡市市長(一期目)
- 出身:福岡県
- 出身校:慶応義塾大学経済学部1980年卒業
- 趣味:読書・ゴルフ

● 奮戦記

福岡をはじめ日本の農産物の輸出の第一人者、また当会の中国のエリアアドバイザーとしても活躍中のアジアネット代表 田中豊氏と中国に関わって30年、昨年東京から福岡に戻られ、終の棲家を構えられた山九株式会社顧問の賀来紀久男氏のお二方に中国での思い出、苦労話、中国ビジネスに関わる人へのアドバイスなどをお聞きしました。

福岡のアジアネットワークを夢見て



アジアネット 田中 豊

「中国スピードを体感」

私は1982年に大学卒業後、東京の貿易促進団体（日本国際貿易促進協会＝通称国貿促）に勤務し、中国最大の商談会といわれる「広州交易会」の日本事務局代表を8年間務めました。当時、対日輸出商品のほとんどが広州交易会で取り引きされており、この広大な会場で私は日本企業のサポートをしていました。分野としては、食品、繊維、建材、工芸品雑貨、漢方医薬品、ケミカル、金属、機械・プラント、農水産品など多岐にわたり、毎日が勉強でした。また、82年から90年まで春と秋の2回、香港から広州にわたる玄関口として、経済特区に指定された深センの街を通過していましたが、辺境の一漁村に過ぎなかった小さな村があれよあれよと近代都市に変わっていく様子を、この目で目撃できたことが、その後の私の「中国速度」に対する観念を作り上げたと言えます。70年代以前の大衆運動時代と、この改革開放時代というイデオロギー的に相反する現象も、共にこのマンパワーを背景にした急進的実行性こそが大国・中国の原動力になっています。

「福岡が名乗りを上げた！」

1989年に、出身地福岡で開催された“アジア太平洋博覧会よかトピア”が内外に向けて発信した「福岡がアジアのゲートウェイになる！」は、東京で有頂天になっていた私に新鮮な驚きをもたらしました。多くの仲間が反対し、引き止めてくれましたが、「なぜ東京だけが国際ビジネスの中心なのか？」の気持ちを抑えることが出来ず、アジアネットを設立して独立しました。この屋号は、中国だけの専門に留まらずアジアワイドで行動したいと考えましたし、活動を通じて人的ネットワークを広げることを目指したかったからです。しかし、帰福後は辛抱の連続。大メーカーや総合商社ですら、国際事業は東京一極集中の中で、地域や地場企業のアジアビジネス参入をどう仕掛けるか、いろいろ

思案する毎日でした。その後、通貨危機などもありましたが、アジア開発銀行の年次総会やサミット蔵相会議なども福岡で行なわれ、90年代後半からはいよいよ福岡の地場企業によるアジア取引も本格的に始まり、現在に至っています。世紀が替わり、中国や台湾のWTO加盟、BRIC'sの躍進、国内でも改革の進展でチャレンジャーが活発な動きを始め、アジアと福岡の経済的な結びつきは深まりを見せています。



「ハイテク製品とイチゴが武器に!？」

自動車やIT・ソフト、人材などの分野では、中国・アジアを見据えたビジネス拠点としての福岡・北部九州がホットポイントになってきており、今後ますます明るい前途があると考えています。他方、この5年余り魂を込めて取り組んでいるテーマは、農水産・食品業と観光業の対アジア戦略です。これからの時代、農業・食品と観光は、アジアにおいても九州は絶対に光り輝く産業になる、と確信しているからです。九州の美しい景観に誇りを持ち、大自然に働きかける一次産業を支援できる喜びは体験したものには分からないと思います。アジアに向けてわが国の扉を開ける事により、本当に日本農業を守ることが出来るかどうか、今、試金石を迎えています。農水産業をこれからの先端産業、リーディング産業に変えることも私の大きな夢です。

この25年間、日本の対中国・アジアビジネスを支援してきましたが、安価な商品の流入や企業の流出ばかりの一方通行でしたが、福岡市のスローガンでもある「双方向の関係」実現のため、地場産品の輸出および外国人観光客や企業の誘致に行動を起こしています。6年前に「福岡のイチゴや野菜をもっとアジアに売る」と福岡県が宣言して以来、私も大真面目にこれに取り組んできました。「輸入の間違いじゃないの？」という周囲の声をよそに、右も左も分からない海外での市場開拓に取り組んできました。関係者の努力も実り始め、福岡イチゴが輸出の成功事例として取り上げられるようになり、全国的な食品・農産物輸出のうねりが起き始めています。私は支援者というより、むしろ挑戦者の一人として「逆流戦略実現」の最前線にいますが、アジアネットという屋号のとおり、最近は中国と他のアジア諸国との往来の比率が半々になりました。今後、日本食やアニメ、デザイン、ファッションなど様々な日本文化がクールでカッコいいものとして世界に向かって戦略的に発信されようとしています。「少子高齢化でひるむ必要なし。変化は発展のチャンスととらえるべし」と訴えたいのです。

「元気創りが私の使命」

中央から地方へという時代にあって、これからの福岡の方向性を考える時、やはりアジアとの経済的文化的な結びつきはもっと強くなることでしょう。過去の延長線上や経験からだけでビジネスの潮流を判断してはあつと言う間に商機は目の前を通り過ぎてしまうかも知れません。もちろん悠久の歴史の上に立つアジアでは、「刻々と変わりゆくもの」と「数千年来変わらない不変のもの」を見極める視点が重要です。私が学生時代から実体験した70年代からだけ見ても、中国は右に左にと大きく揺れました。この数年、国交回復以来最悪といわれた日中関係でもそうでした。かつての高度成長時代に言われたようなジャパンイズナンバーワンが長く続かなかったように、物事は絶対的・相対的に変化し続けます。時系列で見ていくことが大切です。実は、このことは社会主義色がまだ強かった頃の中国人から教えられた洞察法です。4000年来激変し続けた国で生き抜いてきた人たちならではの知恵なのです。今起こっている現象も関係性もこれから刻々と変化していきます。

もうひとつ、中国人に教えられた私の座右の銘が「逆向思维 商機無限」。意味は（人の逆を考えれば、商機は無限なり）。欧米だけではなくアジアへ、ハイテクだけでなく一次産業を、輸入だけでなく輸出も、と昔からいつも人と逆のことを考えるのが習性のようなのです。私の場合はどうもビジネスの先見性というよりは、単なるへそ曲がりの弁解のようですね。今、想起しているへそ曲がりは「日本海側を表日本にする！」という物流、商流の地域連携による機会創出です。日本の貿易パートナーは、今では北米よりアジアの方が大きくなりました。アジアに対峙している福岡を含む日本海側が元気になる時代だと私は本気で考えています。

昨年9月、福岡貿易会が主催した極東ロシアへのビジネス視察ミッションに参加して、学生時代以来の大きな衝撃を受けました。北九州空港からわずか2時間足らずのウラジオストクの地で何が起きているのか。まだまだ知らない事ばかりなのに、現実には次々と躍動していることを体験しました。今、福岡貿易会で毎月、中国ビジネスの無料相談を担当させて頂いていますが、本当に様々な業種、ビジネス形態の皆さんが積極的に貿易相談に利用して頂いています。一件でも多くの元気な挑戦者、成功者を福岡から生み出す事が私の使命でもあり、さらなる福岡のアジアネットワーク構築に向けて微力を尽くしたいと願っています。

中国物流に係わって三十年



山九株式会社 顧問 賀来 紀久男

「中国民主化の波 “江沢民思い出のピアノ” と “天安門事件”」

私が中国に駐在中様々な事件を経験しましたが、その中でも一番印象に残っているのは中国民主化運動です。1987年の春早朝、学生による民主化運動に始めて出くわしました。私はその日、外灘にある人民政府に出頭することになっていて庁舎の近くまで行くとどうも様子がただならぬ雰囲気でも中々進まない。運転手に尋ねると「これは上海の学生達が民主化運動をやっている。人民政府に押しかけている。人民政府には行けないよ」とのこと。初めて目にした学生によるデモ隊で道幅50m近くはある道路は学生で埋まっていました。また、その日は日本の三井建設（現三井住友建設）が私達の宿舎の瑞金飯店の敷地内に30階建の外国人用マンションのオープニングセレモニーを開催する予定でした。もちろん当時の上海市長の江沢民氏も招待されており、午後5時開催のところ、学生デモの影響により2時間遅れでやっと到着。何とか式は無事に終了しました。“いざ、お開き”となった時、江沢民市長が「誠に迷惑をお掛けした、このビルの最上階にグランドピアノが有ると聞き及んでいる。来賓の先生方には是非お詫びの気持ちでクラシックを演奏したい。どうぞこの気持ちを受け止めて頂きたい。」とのことで、後に中国のナンバーワンとなった江沢民氏のピアノの演奏を目の前にし、演奏終了後握手した時のクマみたいな分厚くて大きな手が今でも強く心に残っています。

次は1989年の天安門事件です。当時私は外資系物流会社の中国での第1号となった「天津天山国際物流有限公司」の初代総経理（社長）として1989年4月天津に赴任していました。1987年上海市で遭遇した学生達による民主化運動が大きく形を変えて、全国の学生達が天安門広場に集結していました。当時のテレビ・新聞等で取り上げられ世界中で注目を浴びていた時、1989年6月2日に日本から出張で来られた山九（株）中村社長以下幹部達と今後の中国での事業展開の為一度見ておこうと天安門広場に行きますと全然混乱していることなく、かの有名な手造り（紙）の“自由の女神”が佇立しており、全体の感じも和気あいあいと何事かが起こるようなことも想定出来ないような平穏でした。ただ天安門広場には1ヶ月以上も広大な場所に何万人もの若者が寝泊まりしていたこともあってなんとも言えない臭気が漂っていました。そして、事件はこのたった1日後の深夜に突然最悪の形で終止符が打たれました。中国に駐在していた我々は何も起こらないであろうと“白河夜舟”のところを香港・日本からの電話で叩き起こされました。この事件は世界中より“中国は何が起こるか判らぬ国”とか“自国民をも平気で殺戮する国”や“民主化など思いもよらぬ国”と様々な風評や批判が相次いだものでした。以上の様に1980年代はマグマのように沸々とたぎる学生達の民主化への希求というものの強さが我々外国人にもヒシヒシと

感じとれるものでした。あの広大な国を治めていくには強権をもってしか押さえることができなかったのかと思う反面、今後なんとか世界標準の通じる国、民主化が進んで欲しいものと願っているところです。しかし何が辛いのか判りません。あの天安門事件前後中国を一時離れる日本企業、駐在員が多かった中で、中国国内に留まり、仕事を続けたことが、中方の信頼を得ることとなり、以降山九の中国展開を進める上で私の大きな財産となったと思っています。

「日本の尺度で測れないインフラ整備のスピード “中国改革開放政策と山九の中国拠点展開”」

1989年天津市のシノトランスと山九との合併会社「天津天山国際物流有限公司」の立ち上げには筆舌に尽くせない苦労がありました。お客への荷物の輸送には鉄道が当てにならないため、トラックの荷台に荷物と燃料を積んで遠くは内モンゴルまで運ぶこともザラではありませんでした。荷物は無事着いたか、荷物は途中で抜かれていないか、車が事務所に戻るまで眠れない日が続いたものでした。そのような立ち上げの苦労を経て次のステップは中国の改革開放政策に沿っての各都市への物流拠点の展開でした。1997年からは中国総代表の立場で三回目の駐在となりました。

当時大消費地の上海市はもちろんのこと北京、大連、青島、天津、深圳、広州、南京、武漢、成都などの大都市には日・米・欧の主要消費関連メーカーや流通関連のスーパー・コンビニ・ホーム関連センター企業、物流企業の進出は目ざましいものがありました。当時山九は天津に続いて、大連、深圳、上海、広州、青島、南京、北京と合併会社を稼働させ、煙台、蘇州、無錫に分公司（支店）を出し、杭州、南通、張家港、瀋陽に物流拠点進出を検討している時期でした。当時感心したことは中国のインフラ整備のスピードの早さです。日本では立ち退き交渉に時間ばかり掛かって遅々として進まない高速道路も中国ではあっという間に出来上がってしまいます。2000年代初期で既に2万キロに迫る勢いで、2005年で3万キロ、2010年で5万5千キロ、2020年で8万5千キロまで延びる予想で320都市を結ぶ計画です。又中国港湾の発展の様を目の当たりにした私は四半世紀という実に短期間でこうもかわるものかと実感する今日この頃です。1980年代の中国の港湾は河川港中心の上海港・広州港・天津港など振り返れば本当に小規模で先進国港湾を見習う時代でした。今日では世界のコンテナ取扱上位5港（香港・シンガポール・上海・深圳・釜山）がアジア国々でそのうちの3港を中国が占めています。このようにインフラ整備に狂奔する様は感心するばかりでありました。

「中国の抱える課題」

中国は「バブルは必ず弾けるよ、もって上海万博まで」

とか「内面的に問題が様々な形で潜在する」と一部で言われています。

然しながら、私の友人の中国人々や香港の方々にそのような悲観的なものの考え方をする人は非常に少ないですね。彼等は実に長期的に物事を思考し、かつ現象的に物事を把えて対策は実に明確です。“儲かるからやる！” “儲からないからやらない！” ということです。しかし今中国では国、地域が発展する中で色々な問題・課題を抱えていることも事実です。

中国が抱える問題・課題としては中国当局も真剣に対策を講じてきていると皆様も新聞、関係書籍等にてご覧になっている通り、 根深いものとして ・三農問題 ・貧富の差 ・環境問題 ・台湾 ・国内統治 腐敗汚職 ・企業、個人、政府の信用問題 ・一党独裁体制の維持等々があります。その中でも農村、農民、農業の三農問題は深刻です。農村からの出稼ぎ農民の子女の教育、戸籍問題です。上海では登録人口1670万人と戸籍のない出稼ぎ流動人口は400万人と言われています。又改革開放の名目で各地方政府が農地を農民から不当に安い価格で取り上げ工業団地他に転用し、各地での農民の暴動が発生していることが昨年テレビで放映されたのを見られた方も多いと思います。又日本が何十年か前経験した環境汚染の問題、近年急増していると言われているHIV感染者、SARS、鳥インフルエンザと中国の問題として片付けられない課題を抱えています。特にSARSでは現地で相まみえ震え上がった経験を致しました。

「ハードネゴシエーター中国人との交渉、中国ビジネス」

中国に関わって30年、中国各地で色々な人、色々な出来事にでくわしましたが、それは未知との遭遇の連続であり、その事象たるや我々日本人の想像の及ばないことが多かったです。その中で身にしみて中国における商売、事業活動で儲けることの難しさを経験したものでした。

“談判”と言われる交渉の場では、それはそれは非常に厳しい精神状態と時間が強いられました。交渉は忍耐の張り合いでどちらも相手がキレるのを待つような状況で、キレた方が負けとなり「忍」の一字でした。仕事の上での付き合いは誠に“強か”でいて、後腐れのないあっさりとしたもので、終われば乾杯の世界。

その為本当に個人的なお付き合いが出来る人、信頼出来る人を見つけることが中国ビジネスでの成否の一つになると思っています。“Heart to Heart” たり得る人とうとう出会うか、どう出会いを作るか、育てるか肝要だと思います。

小職のつたない中国経験をお話ししましたが、“没有问题（メイヨウウエンテイ）が本当の「問題ないよ」になることを願っています。 再見！

●貿易概況

平成18年分 九州経済圏貿易概況＜速報値＞

区分別輸出入額

(単位:億円、%)

	区分	平成18年	平成17年	前年比
輸出	全国	752,531	656,565	114.6
	九州経済圏	70,099	60,807	115.3
	福岡県	34,247	31,364	109.2
	博多港*	11,310	9,229	122.5
	福岡空港	7,556	7,695	98.2
輸入	全国	671,583	569,494	117.9
	九州経済圏	71,407	57,626	123.9
	福岡県	22,452	18,201	123.4
	博多港*	8,261	6,694	123.4
	福岡空港	5,347	3,919	136.4

←輸出総額は5年連続のプラス！

←輸入総額は4年連続のプラス！

*博多港は博多外郵を含む

九州経済圏主要品目輸出入額

(単位:億円、%)

	順位	品名	金額	前年比
輸出	1	自動車	13,947	115.6
	2	半導体電子部品	5,965	106.6
	3	鉄鋼	5,276	115.4
	4	有機化合物	4,827	114.2
	5	船舶	4,479	129.8
輸入	1	原油及び粗油	25,867	129.0
	2	金属鉱及びくず	5,331	151.7
	3	石炭	3,737	100.4
	4	半導体等電子部品	3,131	132.9
	5	石油製品	3,062	113.7

九州経済圏主要地域(国)別輸出入額

(単位:億円、%)

	順位	品名	金額	前年比
輸出	1	中華人民共和国	10,824	139.3
	2	アメリカ合衆国	10,804	124.5
	3	大韓民国	10,471	113.4
	4	台湾	5,516	111.1
	5	香港	2,899	94.5
輸入	1	中華人民共和国	10,034	119.6
	2	サウジアラビア	8,862	134.8
	3	アラブ首長国連邦	6,779	150.1
	4	オーストラリア	5,909	110.4
	5	大韓民国	5,658	122.4

←中国は韓国、アメリカを抜き、初めて九州最大の輸出相手国
・対中国は18年ぶり輸出超過(全国では輸入超過)

博多港・福岡空港 貿易額＜平成14年～平成18年＞

(単位:億円、%)

		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年		平成18年	
		金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
輸出	博多港*	5,433	113.5	7,763	142.9	10,118	130.3	9,229	91.2	11,310	122.5
	福岡空港	9,316	121.1	7,197	77.3	6,288	87.4	7,695	122.4	7,556	98.2
輸入	博多港*	5,027	103.1	5,011	99.7	5,571	111.2	6,694	120.2	8,261	123.4
	福岡空港	2,829	116.3	2,862	101.2	3,087	107.9	3,919	126.9	5,347	136.4

●セミナー等報告

報告 “ロールプレイで学ぶ貿易実務セミナー”

福岡貿易会初の実践・参加型の貿易実務講座、“ロールプレイで学ぶ貿易実務セミナー”を1日講座で開催いたしました。前半は「貿易の仕組みと流れ」をあらためて整理し、インコタームズ、貨物保険、代金決済、通関など貿易の全体像をつかんでいただいたあと、午後からはいよいよ役割分担をしてロールプレイ（貿易の模擬体験）をしていただきました。

まずは5グループ、各グループ6名ずつに分かれていただき、輸出者（2名）、輸入者（2名）、第三機関＜銀行、船会社、海貨業者、保険会社、税関＞（2名）の役割分担を決めて、いよいよロールプレイの開始です。



今回のシナリオは「福岡の輸出者がアメリカ シアトルへオファーを出し、注文書、販売契約書をやり取りしたあと、ロボット100台をCIFシアトルで輸出する」という内容です。

まずは輸出者名、輸入者名、船名などを各グループごとに ネーミングからスタートです。

参加者のあるグループは「輸出者：“Hawks,” 輸入者：“Mariners”」など個性溢れるネーミングで、契約内容や条件を確認しながら書類を完成し、書類とお金とモノを実際にやり取りして確認しながら進めて行きました。

参加者の皆様からは「普段の業務とは違う立場を経験できた」、「貿易の一連の流れが解り有意義だった」などのご意見いただきました。

<日 時>平成19年2月8日(木)9:30~17:30

<ところ>エルガーラホール 会議室I

<講師>国際経済交流企業組合

※今年度も開催予定です。



一番左：前半の実務の講義とロールプレイのご指示を頂いた

国際経済交流企業組合 理事長 清水正明氏



お金も実際に『Money』と書かれた用紙に金額や必要事項を記入します。

貿易のチャートボードを使ってロールプレイのご指導を頂いた

国際経済交流企業組合 安田克己氏





報告 税関セミナー

平成 19 年度に予定されている『平成 19 年度関税改正について』と、皆様からのご要望も多い『関税評価について』をテーマに門司税関博多税関支署のご協力のもとに開催いたしました。

平成 19 年度関税改正については、残念ながら、国会の状況でセミナー当日までに改正点の全容をお話いただけず制約がある中での開催となりましたが『平成 19 年度関税改正に関する関税・外国為替等審議会答申の概要』に基づいて門司税関博多税関支署通関総括部門統括審査官の田村和雄氏にお話を頂きました。

また、後半は森尾広志上席審査官に『関税評価について』のご説明を頂きました。輸入貨物の取引に関して買手により負担される費用が加算要素となる場合、ならない場合など色々なパターンを挙げてのご説明に参加者の皆様からは「説明方法が明確でわかりやすかった」、「加算要素を今後見直すことができた」などのご感想を頂きました。

セミナー終了後は講師をお務めいただきました田村統括審査官、森尾上席審査官にお残りいただきご希望者からの「個別相談」の案件にもお応え頂きました。

<日時>平成19年3月8日(木)14:00～16:00
<ところ>エルガーホール 中ホールII
<主催>(社)福岡貿易会



『平成19年度関税改正について』
門司税関博多税関支署
通関総括部門 田村和雄 統括審査官



『関税評価について』
門司税関博多税関支署
通関総括部門 森尾広志 上席審査官

●今後の行事・編集後記

「平成19年度 行事予定」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	5月31日 総会・理事会・交流会										3月末 理事会
	5月11日 常任理事会		7月 常任理事会		9月 常任理事会		11月 常任理事会		1月 常任理事会		3月 常任理事会
4/17～21 海外視察団派遣						10月、11月頃 海外視察団派遣					
								12月 会員交流会			
4/12 ゴルフコンペ					秋 ゴルフコンペ						
貿易相談	相談日	一般貿易相談：毎週月曜日、水曜日（第3月曜日を除く）					※予約制				
	相談日	中国ビジネス相談：毎月第3火曜日					※予約制				

「平成19年度 セミナー計画」

対象者	名称	回数	開催日又は予定日	募集定員	内容
初心者/実務担当者向け	新人・新任者向け貿易研修会(実務講座)	1回(3.5h)	H19.5.23	40	初心者向けの貿易実務講座と施設見学会
	新人・新任者向け貿易研修会(施設見学会)	1回(2.5h)	H19.5.24	40	
	貿易英語初級	1回	H19.6	40	貿易実務に必要な貿易英語
	フォローアップセミナー・ロールプレー	1回(2.5h)	H19.10～11	50	「新人・新任者向け貿易研修会」から半年後の続編セミナー
初級者/実務担当者向け	輸出入金融セミナー	3回(2h×3)	H19.11	50	輸出入取引決済に関わる為替の仕組みなど実務中心のセミナー
	海上保険セミナー	1回(2h)	H19.10～11	50	出入に関わる「貨物海上保険」についての実務セミナー
初級者以上/実務担当者向け	食品輸入セミナー	1回(2h)	H19.11	70	厚生労働省福岡保健所食品監視課から講師を迎え「食品輸入」に関する法令改正など実務を中心としたセミナー
	税関セミナー	1回(2.5h)	H20.1～3	70	博多税関支署統括審査官を講師に迎え、法令改正など通関実務のセミナー
役職者向け/実務担当者向け	海外事情セミナー①	1回(2h)	H19.5～11	70	海外のエリアにスポットを当てたセミナー テーマ：ブラジル、ロシア、インド、中国、ベトナム、アセアンなど
	海外事情セミナー②	1回(2h)	H19.5～11	70	
	海外事情セミナー③	1回(2h)	H19.5～11	70	
	海外情報エクスプレス①	1回(2h)	H19.5～H20.3	50	現地駐在の日本人帰国時に講師に迎え現地の最新事情を伝えて頂くセミナー
	海外情報エクスプレス②	1回(2h)	H19.5～H20.3	50	
	国際法務セミナー	3回(3h×3、夜間講座)	H19.7～8	50	

〈語学関係〉

中級者/実務担当者向け	中国語研修会	未定	未定	20	ビジネスシーンを想定した会話や貿易・物流に関する専門用語の紹介。
-------------	--------	----	----	----	----------------------------------



編集後記 / 事務局長 野 忠雄

今年1月から貿易会に赴任しましたが、1月発刊したての貿易ニュースを見てどう思うか？と聞かれ、ザッと見て「あまり見ようと思わない」と、率直に言ったら、変えようと考えているので内容を考えて？えっ、・・・「貿易に関すること経済関係も初めてで、経験ないのに？」それで、考えて出た結論が「皆さんに読んでもらえる、将来は広告収入で発刊できる」をキーワードに、報告は最小限にポイントだけとし、情報発信を主体に、さらに、ホームページとのすみ分けをしよう。ということで今回こうゆうのができました。皆様のご意見を聞きながら進めて参りたいと考えていますので是非ご協力をお願いします。

事務局職員紹介



事務局長

野 忠雄

(平成19年1月1日付採用)



嘱託員

柴田 純子

(平成19年4月1日付採用)

セミナーを担当しています。
ご希望の講座などございましたら、どしどし御意見を！
ホームページ <http://www.fukuoka-fts.or.jp/>